

鯉淵学園同窓会

同窓会報

第96号

令和5年10月31日
 発行：鯉淵学園同窓会
 〒319-0323
 茨城県水戸市鯉淵町5965
 TEL：029-259-2811
 FAX：029-259-6965
 http://koibuchi.main.jp/
 メールアドレス：koibuchidousou@gmail.com

会長就任にあたって



黒澤 賢治
 (25期卒)

はじめに

建学以来、70数年の長い歴史と7、

800名余に及ぶ卒業生を、全国各地の農業界・食品産業界・行政指導機関・JA関係機関等に輩出し、食料・農業・農村の礎を築き、今なおその役割・機能を發揮し続ける教育機関「鯉淵学園」の同窓会会長をお引き受ける事となりました。浅学非才を顧みず、同窓会の運営・学園の現状打破に全力を傾注し、会員相互のコミュニケーション・アップに取り組んで行く所存でありますので、会員皆様の深い御理解と御支援を賜ります様、お願い申し上げます。

さて、3年余に及んだ未曾有のコロナ禍により、同窓会運営は幾つかのコミュニケーション・ツールを駆使しつつ、会員相互の連携や県支部・卒期別同窓会等をよりどころに、懸命な努力を重ねてまいりましたが、人の往来の抑止、更には集会の規制等により、同窓会の基本機能となる支部・常任委員会、2年に一度の同窓会大会も甚だの決断による「書面議決」による開催を余儀なくされるに至るなど、組織活動は大きな支障をきたす結果となり、会員の皆様には、大変な御迷惑と御心配を、お掛けした3年余となつてしまいました。

まだまだ、コロナ禍の後遺症が社会機能とりわけ経済機能のそこはしこには残っておりませんが、新体制を構築し、しっかりとした方針を樹立し、難問解決に向け努力を重ねて行く所存でありますので、従前にました関連な活動展開が出来ますよう組織再構築を進めてまいりたいと考えます。

そこで、当面する同窓会運営上の様々な諸課題の中で、まず対処しなければならぬ喫緊の課題をピックアップしておきたいと思ひます。

同窓会の最大の機能は「鯉淵学園で学んだ」のネットワーク化

組織的には「県別支部」「卒期別同窓会」等が構成され、特徴ある活動がなされています。建学以来70余年の学園は、世代別に大きく分布しており、他校には無い全国ネットである事から、画一的な組織運営が困難な場面も見受けられます。数県については、「県支部」が未設置な県も見受けられますので、設置に向けた準備とコミュニケーション強化を促進し、県支部の創設を目指していただきたいと思ひます。県域を越えたブロックでの活動も数支部ある事も組織運営スタイルではないかと思われま

す。コロナ禍でも着実に開催されたのが「卒期別同窓会」だと認識しており、様々な手法による同窓生の交流が活発化される事を期待し、ベースの更なる拡大を念じております。

学園経営の健全化と「学制の在り方」について

「2年制全寮制」時代から幾多の学制改革を通じて、今日的には一部寮（県外者・

留学生）通学スタイルとなっております。3年制・4年制専門学校の定着が固定化しなかつた理由もありますが、「特徴ある教育実践」の形骸化と「少子化から来る慢性的な就学生不足」が生じ、学園経営も財政破綻に近い実態を迎えたと云えます。経営サポートの変遷もあり、しっかりとしたバックアップ体制構築が喫緊の課題と言えます。「学制改革・経営改革」が当面継続しており、同窓会としても出来る支援を継続したいと考えます。

在校生に対する支援の実践について

学園で学ぶ在校生に対し、要請があれば積極的な支援を同窓会として実践していきたいと考えます。校外実習・経営体実習等では同窓生の支援体制構築も大きな支えとなります。今後共、温かいご支援をお願い致します。

以上、喫緊の課題と要請をさせていただきました。同窓会事務局も新たな体制となりました。コロナ禍からの脱却が徐々に進行している中ですが、同窓会の財務内容も極めて厳しいものがあります。全国各地で果敢な活動を展開し、「鯉淵学園卒業生」として地域社会や経済活動で活躍されている実態がメディアで流れるたびに、地域リーダーとして懸命に活躍される同窓生の姿が目に見えます。新体制で重責を担わせて頂きますので、不備な点等も思ひますが御許しを頂き、同窓会の機能を果たす所存であります。会員皆様の益々のご健勝とご活躍を祈念し就任のご挨拶とさせていただきます。

理事長あいさつ



理事長
森 啓一

はじめに

鯉淵学園同窓生の皆様、いつもお世話になっております。

令和5年2月16日に理事長に就任しました森啓一と言います。宜しくお願ひ致します。

私は茨城県日立市で生まれ、中学、高校と水戸の学校に通い、その後高校卒業と同時に東京に出てから、紆余曲折を経て、現在は東京都大田区に住んでおります。

東京では、株式会社フォーカスシステムズというIT会社の代表をしています。

この度、縁あって公益財団法人 鯉淵学園の理事長に就任しました。

過去から現在へ

日本における一次産業、特に農業分野には以前から、危機感も含め様々な思いを持っておりました。

現在、日本の食と農を取り巻く状況は、学園発当初から大きく変わっているように思います。学園発当初、初代学園長であられた小出先生は、学生募集の中で、

「教育の本質は個人の完成にあり、確固たる信念により動き、自己の責任を果たし、よく社会を担う人物とならねばならない。」さらに農業教育という観点から、農業を通じて、

「国家再建に命がけで取り組む人物を期待する」と書かれています。

しかしながら、この小出先生の願いに反して、現在の日本の食と農は、衰退の一途をたどっており、食の安全性・食糧問題は日々深刻となっております。

農業所得の大幅な減少、後継者不足の深刻化、食料供給に対する不安、そして農村活力の低下等が問題視されています。食と農は、我が国の成長の基盤となるものであり、必要不可欠なものであります。

食と農の目指すべき姿を明確にし、子供から大人、そしてお年寄りが安全・安心に暮らせる環境を創り出す責任が私達にはあります。

人が生きていく上で、最も大切な食と農の問題を蔑ろにして、社会の健全な発展はあり得ないと考えています。

現在から未来へ

鯉淵学園は、食と農に関する教育、及びこれらの産業に貢献できる人材の育成を目標として、我が国農業の発展と食の安全に寄与することを目的として設立された学校です。

食と農と教育、食と農と観光、食と農と医療・介護問題、食と農と新技術開発、食と農とエネルギー問題、そして食と農と環境にどのようにかかわっていくのか、と様々な可能性がここに

は秘められています。

そうした中で、鯉淵学園の同窓生の皆様のお力は、これからの我が国にとり、なくてはならない大きな力であると確信しています。

今年度、鯉淵学園は「真生 鯉淵」をスローガンとしてスタートしました。真生とは、新しく生まれる新生ではなく、真に生まれるという意味での真生です。自分のためではなく、家族のため、社会のため、ひいては国のため、

学園長あいさつ



学園長
長谷川 量平

今般、令和5年4月1日をもって、第12代の学園長に就任いたしました長谷川量平と申します。出身は静岡県静岡市で、昭和45年10月の生まれで今年53歳になります。鯉淵学園には、平成9年の6月より着任をいたしております。専門は食料経済です。

鯉淵学園に奉職して20年以上がたちます。農業の情勢変化もさることながら、20年前の4年制に切り替え、学生があふれるほどいた鯉淵学園と、現在

世界のために、食と農を通じて貢献できる学生を育てるのが鯉淵学園の使命と考えております。

そのために最も重要なのが教育であり、これまで鯉淵学園が大切にしてきた価値観教育、人格教育、実践教育を通じて、日本の食と農業に大いに貢献できる人材を育てる決意です。

今後ともご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

の鯉淵学園を比較して思うことは、鯉淵学園が持っている教育資源を十分に生かしているのだからだろうか？鯉淵学園の魅力ともいえるものを現在に十分に発揮できているのか？鯉淵学園の歴史、伝統をしっかりと現在の職員は理解して誇りをもって職務、教育にあたっているのか？甚だ疑問に思いません。

ご存じのように、鯉淵学園には長い歴史と、皆様方同窓生の強力なネットワークがあります。それ以上に、食と農に関する教育のノウハウの蓄積があり、他校・他大学にはなしえないものが数多くあると思います。

鯉淵学園には、昔も現在も博士号を持つ教員が複数在職し、そうでない職員もその分野では一流の知識と経験を持つ職員がそろっていると自負しています。

決して現在の職員が怠慢で能力が低いと言っているわけではありません。

ただ「鯉淵学園」という誇りある学園で一丸になることができているという事です。

本年2月に森啓一理事長をお迎えし、「真生鯉淵」のスローガンのもと、まずは「鯉淵学園」として、職員一同一丸となる事が第一に必要な事であると強く思います。

第二に、私自身の反省も含めて鯉淵学園、学園職員がもつ、その能力・経験を外部・地域に対しての発信をしないで長年過ごしてきたことを反省し、今後、地域への貢献、地域自治体および民間企業との協働による事業の展開を積極的に行い、「鯉淵学園があつての地域・企業」、「地域・企業があつての鯉淵学園」となるようにし、実社会の先端とともにある教育を展開したい

鯉淵学園の今後の取り組みについて



常務理事
常井 孝之

新任のご挨拶

鯉淵学園同窓会員の皆様はじめまして。今年の4月から鯉淵学園の常務理事に拝命されました常井と申します。

と思います。

現在の社会情勢は、混沌とし、すぐ先のこと全く予測できない状況にあります。しかしながら、確実に言えることは、食料・農業への社会的関心が高まり、同時に、その分野への人材供給ニーズも高まると思います。そうした中で鯉淵学園への関心も高まること予測されますが、関心が高まって内実がない、バラバラな学園ではいけないと思います。常に世の中の先端と向き合い、リードしていく鯉淵学園を作るべく、私も一兵卒として全力で取り組みたいと思います。

同窓会の皆様には今後ともご指導いただきたいと思いますので、なにとぞよろしくお願いいたします。

私は35年間、海外との輸出入の仕事をしてまいりました。そうした中で、3年ほど前から農林水産省の海外輸出拡大実行戦略事業に海外取引の専門家として活動した事から農業に関わる事となり、同時期に鯉淵学園の新規事業としてICT農業、栗を餌にした養豚事業等に携わった事が縁の始まりとなります。今後今までの経験を活かして、鯉淵学園に新しい流れを組み入れていきたいと思えます。

学園と学生たちのグローバル化

前述しました海外取引や農水産物の輸出に関する経験を活かし、海外の農業大学や学生達との交流を行う事に

よって、先生方や学生たちの世界観が広がり、また日本市場だけでなく海外市場への販路開拓も国の支援を受けながら実施出来る事なども学生達に教えたいと思えます。

鯉淵学園ブランドの確立

現在、卒業した学生が新規就農者となる事は残念ながら少ない状況です。その原因は様々ですが、『農業で生計を立てられるのか?』『農業は休みがなくて大変』なども掲げられるかと思えます。そのような意識を変える為には、農業の重要性、働きがいなどの教育も行うと共に、販路開拓に役立てる様、鯉淵学園の学生たちが作った農産物や加工食品などのブランドを確立し、卒業後にそれを活かして農業を営みやすい環境もつくっていききたいと考えております。

また、鯉淵ブランドが有名になる事

によつて学園の知名度が上がり、学生募集にも役立つ事となります。

付加価値の高い農産物の生産

鯉淵ブランドを確立する為に、付加価値の高い加工品を含む農産物の生産と教育をスタートしております。

まずは栗の生産地として有名な笠間市の栗を餌にした豚肉を鯉淵ブランドとして世に出すための実証実験を実施しております。

廃棄対象となるくず栗を餌として使用し、栗農家のロスを軽減し、利益率の高い養豚業を目指す生産者が増加し、笠間市の新たな名産品として地方創生にも役立つ事を期待しております。

その他にも様々な企業と連携する事によつて学園オリジナルの味噌、漢方薬、健康サプリ等の生産も計画しております。

食料自給率100%以上を目指す

皆様もご存じの様に日本の食料自給率は他の先進国に比べて非常に低い水準にあり、これは日本にとつて大きな課題であります。日本は海外からの輸入が多いため、異常気象や外交問題などの要因によつて、輸入が制限され、国内の食料供給が不安定になる可能性があるため、自国での食料生産を増やし国民が国産の食料を食べる様に、更には備蓄の準備も必要です。これらの課題解決の為には新規就農者の増加が必要不可欠で、鯉淵学園の学生たちが日本の明るい未来を担っている事をしっかりと認識し、食料自給率の向上を目指していきたいと思えます。

鯉淵学園による農業活性化

歴史ある鯉淵学園には学園を愛する卒業生の方々がたくさんいらっしゃって、今まで様々なご支援をいただいております。これからはこの素晴らしい伝統を継続する事によつて、学園から多くの農業人が生まれ、日本の農業は必ず活性化していくと確信しております。

私も皆様のお力添えを頂きながら、鯉淵学園の発展のために尽力してまいります。同窓会の皆様には、変わらぬご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

公益財団法人 鯉淵学園 役員名簿

(令和5年6月23日現在)

新体制の紹介

公益財団法人鯉淵学園（令和4年4月改称）の運営体制が、令和5年2月に伊勢彦信理事長から森 啓一理事長に変わり、これまで運営の主体となっていたイセ食品株式会社が離脱しました。

4月1日からの新執行体制に伴い、島崎弘幸学園長、海老沢義昭常務理事は退任されました。

主な役員は次のとおりです。

顧問	國井 正幸	(一社)全国農業会議所会長
----	-------	---------------

【理事・監事】

理事長	森 啓一	(株)フォーカスシステムズ代表取締役
常務理事	常井 孝之	法人事務局長 (株)トップスポット代表取締役
常務理事	長谷川量平	鯉淵学園農業栄養専門学校 学園長
常務理事	宮下 鷹司	環境整備担当 農業生産法人マザーランド代表取締役
理事	稲垣 照哉	(一社)全国農業会議所専務理事
理事	黒澤 賢治	特定非営利活動法人アグリネット理事長 同窓会会長
理事	諏訪内尚克	(株)三貴代表取締役社長
理事	豊原 秀和	元東京農業大学副学長、名誉教授
理事	平原 信男	元須賀川市立阿武隈小学校校長
理事	松村 光祥	(有)山文取締役社長
理事	西間木直子	元福島県須賀川市教育委員
理事	山田 浩太	アルファイノベーション(株)代表取締役
監事	海野 雅文	茨城県農協中央会 県域営農支援センター長
監事	海老沢義昭	前(公財)鯉淵学園常務理事

【評議員】

加藤 達人	(公社)日本国民高等学校協会理事長	鈴木 正平	税理士
小池 航	(株)環境管理センターアグリ事業開発部部长	永見 基定	元茨城県農林水産部部长
坂元 良二	(公社)国際農業者交流協会常務理事	松井 英人	学校法人みのり学園理事長、住職
下山 一郎	(有)瑞穂農場代表取締役社長	先崎 千尋	茨城大学非常勤講師
菅原 哲朗	学校法人東京農業大学理事	若林 英一	元下野農協常務理事、鯉淵学園同窓会副会長

鯉淵学園同窓会新役員名簿 (任期 令和5～6年度)

会長	黒澤 賢治	25期卒	群馬県支部	常任委員	富岡 忠明	44期卒	東京都支部
副会長兼常任委員長	若林 英一	25期卒	栃木県支部長	//	秋葉 勝矢	46期卒	学園支部長
副会長	大橋 晃市	32期卒	茨城県支部長	//	神尾 尚宏	51期卒	静岡県支部長
副会長兼事務局長	石塚 仁	33期卒	茨城県支部	//	熊谷 隆	54期卒	埼玉県支部
常任委員	卜部 泰郎	19期卒	千葉県支部長	//	野澤 ゆう	56期卒	東京都支部長
//	青木 敏	20期卒	長野県支部長	//	篠原 由美	70期卒	学園支部
//	五十嵐竹男	23期卒	福島県支部長	監事	平沼 常雄	26期卒	茨城県支部
//	江幡ゆき子	23期卒	茨城県支部	//	浅津 竜子	47期卒	学園支部
//	久保 好唯	34期卒	群馬県支部長	顧問	九石 裕	23期卒	栃木県支部
//	小林 梅代	35期卒	茨城県支部	//	長谷川量平	-	鯉淵学園学園長

鯉淵学園農業栄養専門学校的主要教員紹介

教 授	長谷川暁平	学園長、博士（農学）、 フードシステム
客員教授	入江三弥子	茨城県栄養士会 会長、 管理栄養士、調理学
客員教授	島崎 弘幸	博士（理学）、特別講義

アグリビジネス科

教 授	高田 良三	科長、博士（農学）、 畜産・飼料栄養生理
教 授	大熊 哲仁	副学科長、園芸・野菜栽培
教 授	前嶋 智	副学科長、修士（農学）、 植物防疫・作物保護
教 授	井上 洋一	博士（農業経済学）、 農業組学論
准教授	磯野 卓司	家畜・解剖生理・生産加工
講 師	平澤 朋美	有機農業・土壌
講 師	佐藤スワパット	日本語・日本文化
講 師	青木 淳	農産物加工

食品栄養科

教 授	野口 貴彦	科長、博士（農学）、生化学
教 授	浅津 竜子	副科長、管理栄養士、給食管理学
教 授	小林 秀行	博士（農学）、食品学
准教授	若林 陽子	管理栄養士、栄養学
助 手	勝山 由美	管理栄養士、栄養指導論
助 手	新井 波音	管理栄養士
助 手	高崎 瑞穂	管理栄養士
助 手	峯山 涼子	管理栄養士

農業技術センター

准教授	秋葉 勝矢	センター長、農業機械
講 師	鈴木 一広	副センター長、農業技術
講 師	田口 房男	農業実習
講 師	田山 和実	生産加工販売実習
助 手	高瀬 努夢	生産加工販売実習
助 手	篠原 由美	生産加工販売実習
助 手	大槻 将太	生産加工販売実習
助 手	酒井 祐介	生産加工販売実習

鯉淵学園教育の近況と学生募集協力へのお願い

学生ファーストの教育
本校に入学した学生たちは、学費だけでなく青春時代の2年間という貴重な時間を費やし日々学んでいます。この学生たちの満足度を高めることは、学校として彼らの期待に応えるために当然のことです。本校は同窓会諸氏もご存知の通り、学生と職員との距離が近いアットホームな教育環境ですが、さらに学生の声に耳を傾けるよう努めており、可能な部分から改善を積み重ねています。さらに、教員の授業力向上の組織的取り組みについても強化を進めています。また、学生たちの主体的な学び・活動についても後押しをしています。

日頃より本校事業にご理解・ご協力を賜り誠にありがとうございます。本校を経営する（公財）鯉淵学園は、今年3月より森啓一理事長が就任するとともに、学園長に長谷川暁平教授が就任し、新たな体制のもと教育事業に取り組んでいます。



入試支援室 室長
前嶋 智

ます。コロナ禍でやや低下を余儀なくされた自治会活動も、職員がある程度のお膳立てをしながら充実をはかっています。

ただし、学生の要求に一方的に迎合やかすのではなく、卒業時まで社会人として必要な自立心・責任感・協調性などを身につけるため、成績評価・出席評価については、従来よりも厳格化した運用にするなど、講義・実習にはしっかりと取り組むよう指導しています。

学生たちが身につける専門知識・技術について、本校の持つ実践的な環境を活かしつつ、近年はドローン・スクールなど外部企業との連携によって、新たな教育を展開しています。また、積極的な地域連携活動・研究活動などを通し、関係する職員の資質向上を目指すとともに学生教育への還元を図っています。

学生募集協力へのお願い

年々厳しさを増している学生募集状況ですが、本校においても全学的に学生募集に力を入れており、全職員で学校の魅力発信を再確認するワークショップなどに取り組んでいます。同窓会諸氏におかれましても、可能な範囲で本校入学生獲得に向けPR等にご協力を頂けましたら幸いです。

叙勲受章者の紹介

学園の同窓生が令和5年春の「叙勲」で受章されましたのでご紹介いたします。おめでとうございます。

旭日双光章



22期 高橋由一氏 (岩手県)

前金ヶ崎町長

※氏の情報は同窓会報91号、95号に掲載

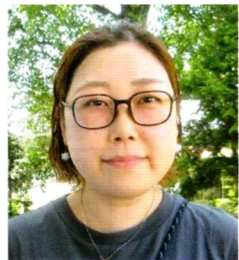
旭日中綬章



23期 雨宮 勇氏 (長野県)

前全国厚生農業協同組合連合会経営管理委員会会長
元長野県農協中央会長

※氏の情報は同窓会報91号、92号に掲載



食品栄養科
1年 新堀亜由美

私は約20年前、地元の短大を卒業し都内の安定した企業に就職することが出来ました。しかし、新たな自分の目指す場所や更なる知識・技術を得る為に転職しました。今思えば異なった業態・業種だからこそ新鮮で新しい発見がある20代だったと思います。

30代になりスキルも確立し管理職に就き、やりがいや責任感に満ち溢れていた中で体調を崩し、国指定の難病に罹ったことが分かりました。そこで蔑ろにしていた自分の身体について考えるきっかけになったことが今の自分をつくり上げています。

服用している薬の副作用や体調をしっかりと理解することにもつながるため、食品栄養科で学んでいます。年代は違っても同じ目標をもつ友人達や親しみをもって優しく寄り添って下さる先生方に支えられ、新しい学びに毎日ワクワクしています。卒業後は、超高齢化社会の現代で新しい目線を持って、柔軟に考え栄養指導ができる栄養士になりたいと思います。



アグリビジネス科
アグリビジネスコース
1年 大竹凌花

私の家族は非農家ですが、親戚が農家を営んでいます。親戚の家では、継ぐ人がおらず、また、農業界全体でも担い手不足が問題となっていることを知り、農業に携わろうと思いました。そしていち早く農業について学ぶ為農業高校へ進み、また上を目指すためにこの鯉淵学園に進学しました。

授業は座学と実習で分かれており、座学で詳しく勉強したことを実習の時に実際に活用するという流れです。座学では、たくさんの方の事を学ぶので頭がパンパンになってしまう時もあります。また実習では、暑くて大変な時もあります。ですが座学も実習も、優しく面白い先生方や先輩方、同級生と行えるのでとても楽しいです。

私は鯉淵学園卒業後、具体的には決まっていますが、何らかの農業のお仕事に就きたいと思っています。農業のお仕事に就くにあたって、知識に困らないようにしたいので、この二年間でたくさんの知識を身につけていきたいです。

新入学生の抱負

私の祖父母は和牛の繁殖農家をしています。幼いころから手伝いなどをし、牛の世話をする祖父母の姿を見てきて、私もやりたいと思いました。鯉淵学園農業栄養専門学校では、人工授精師の資格だけでなく、家畜体内受精卵移植師の資格も取得することができるため、入学を決めました。

授業や実習は、初めてのことがばかりで分からないことも多く、大変なこともあります。先生方や先輩方は優しく教えてくれるため、楽しく日々を過ごすことができています。

私は将来、祖父母の農場を継ぎ、より良い和牛を育てていきたいと思っています。そのためにも、飼育管理や資格取得などの勉強を頑張り、2年間の学校生活を有意義に過ごしていきたいと思っています。



アグリビジネス科
畜産コース
1年 喜屋武穂乃香

鯉淵学園農業栄養専門学校に入学し、食と栄養の関わりや食事療法などの「食」にまつわる知識をあらゆる観点から学ぶために次の抱負を立てました。

まずは栄養士実力認定試験でA認定を取ることです。「食と栄養」とは何かを2年間で追求し、就職する際には自分の持っている知識を100%出し社会に貢献できるようになりたいと考えています。

また、知識だけではなくしっかりと調理技術も身につけるためにコツコツと努力していきたいです。そのために今私が取り組むことは、定期テストでA評価以上を取ること、一回一回の調理系実習を大切にすることです。そして卒業後は栄養士として就職し、将来的には管理栄養士の資格取得、栄養指導業務に従事することを目指しています。



食品栄養科
1年 野田若奈

学園ニュース

過去1年間、同窓会ホームページ (<http://koibuchi.main.jp>) に掲載された学園の主なニュースをご紹介します。

令和4年7月 「学生ホール改修工事」

7月下旬の猛暑の中、旧図書館（現在の学生ホール）で屋根の改修工事が行われていました。職員の方に状況を伺ったところ、先日屋根の天井部が老朽化のため落下し、暫くその下の通路が通行禁止になっていたそうです。

学園の開設10周年を記念して作られた旧図書館ですので、既に70年近く経過しており、部分的な損傷が発生するのも当然の状況と思われます。暑い中での作業ご苦労です。



令和4年8月 「バス停『鯉淵学園学生ホール』が設置されました」

1ヶ月ぶりに学園を訪ね、学生ホール（旧図書館）改修工事の進捗状況を確認してきました。既に工事は終了し、屋根や外壁は綺麗になっていましたが、学生ホール前に何やら不思議なものが設置されていました。

路線バスを利用して通学する学生にとって、学園正門前のバス停を利用していた頃に比べ、この場所で乗降出来れば、雨でも殆ど濡れることなく教室に入る事が出来てとても便利になりましたね。



令和4年9月 「東京農業大学農業総合実習が行われました」

2018年より開始され、2020年からは新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止されていた、東京農業大学国際農業開発学科1年生の農業実習

が、3年ぶりに9月5日～9日の日程で実施されました。



令和4年10月 「若林陽子先生が厚生労働大臣賞を受賞しました」

本年度栄養関係厚生労働大臣表彰の「栄養改善事業功労者」として、食品栄養科の若林陽子先生が表彰されました。

栄養改善事業功労者とは、「栄養改善事業の普及向上、栄養士・管理栄養士制度の発展向上、栄養行政に対する協力等に特に顕著な功績のあったと認められる者」とのことです。今回この賞に選出されたのは、全国で5名とのことです。おめでとうございます。



令和4年11月 「第76回鯉淵祭・いちよう祭り」が開催されました」

11月12日、穏やかな秋晴れの下、第76回「鯉淵祭・いちよう祭り」が開催されました。本館から図書館前、そして園芸農場、研修棟から農産物直売所「農の詩」周辺に、多くの出店やキッチンカーが並びました。



令和5年2月 「ドローンの操縦訓練が実施されています」

2月下旬、久しぶりに学園を訪ねたところ、グラウンドの一角で農業用ドローンの操縦訓練が行われていました。

近年「スマート農業」



技術の一つとして注目されている「農業用ドローン」ですが、学園の農業技術センター職員がその操縦免許及びドローンストラクター資格を取得し、昨年から学生を対象に操縦訓練が開始されたそうです。そして先日、アグリビジネス科学生が第1号の免許を取得したそうです。

令和5年2月 「学生食堂が閉鎖になりました」

2月27日、学園に出かけた折、お会いした職員の方から「先週24日をもって、事情により学生食堂が閉鎖になりました。来年度からは、学生食堂が利用出来ません。」とお話を伺いびっくりしました。

学園創立以来長年にわたり、学生はもとより職員の皆さんもお世話になってきた事を考えると、大変複雑な気持ちで帰路につきました。

全寮制が廃止された事や、その後の学生数の大幅減少が大きく影響した事が想像されますが、学園生活での大切な思い出がまたひとつ無くなってしまいい、大変残念な思いです。



令和5年6月 「学園内の環境整備が進められています」

新しく環境整備担当に着任された宮下理事さんが、学園中の木々の選定や片付けなどを行って頂き、見違えるほど綺麗になっています。作業は現在も続けられています。ありがとうございます。



令和5年8月 「ひまわり祭」が開催されました

本日8月11日、農産物直売所「農の詩」周辺を会場に、「ひまわり祭」が開催されました。昨年は8月20日開催予定でしたが、新型コロナ感染拡大の



影響により急遽中止となりました。「農の詩」では学園産の新鮮な野菜やメロン、梨、ブドウ等が販売され、周辺のテント内では、焼きそば、ポップコーン、豚や牛の串焼きの出来たてがアツアツで販売され、多くのお客さんが並んで購入されていました。

句集「ひまわり」の 発刊に寄せて



23期生
大字 路子

長年仕事一筋に生きて来ました私は、いつかチャンスがあれば俳句を…と思いついていました。

そこで退職後地元の俳句クラブへ飛び込みました。季語も切れ字も句会のルールも知らない私は、何年たっても上達しないもどかしさを感じつつ続けて参りますと、日本の言葉、季語の世界の奥深さに出会い、少しずつ俳句の楽しさを感じるようになりました。

四季折々にその姿を変え、美しく変化する自然、旬の野菜や果物、その命をいただく幸せ、喜びを句として参りました。つたない作品ですが、私の生きた証になればと思い、この

※同窓会ホームページは「鯉淵学園同窓会」で検索するか、以下のQRコードからお入り頂きご覧下さい。



度句集としてまとめました。句集には全国の仲間と共に実り多き青春時代を過ごした鯉淵学園時代の思い出も加えました。

句集を発刊し強く感じましたことは、①俳句はその人の生き方、暮らし方をそのまま写し出すものであり、人生を文字にした自分史である。②俳句を始めると日本語の豊かさ、美しさにおどろきます。③俳句のある暮らしは見る物聞く物すべてが新鮮でおもしろく、発見と感動の日々となります。

この様な俳句に出会えたことに感謝し、私の人生に彩りを添えるものとしてこれからも長く続けていきたいと思えます。



同窓会県支部・卒期別の活動紹介

32期生・33期生 合同同窓会の開催

石塚 仁（33期卒）

令和4年11月23日（水）から24日（木）にかけ、宮城県松島町のホテル松島大観荘を会場に、32期生と33期生合同の同窓会が開催されました。

当初は令和2年の同時期に開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症まん延の影響により、旅行やイベント等が広く制限されていたため、2年延期しての開催となりました。32期生は平成29年11月に、33期生は平成30年11月にそれぞれ茨城県大洗町を会場に開催して以来です。

それでも今回はまだ新型コロナウイルス感染が拡大している時期の為、残念ながら直前までキャンセルの申し出が続き、合計31名での開催となりました。幹事代表の挨拶や乾杯の後は「マスク会食」に留意しながら、昔話に楽しく花を咲かせ、美味しい料理とお酒を頂きました。

この夜はサッカーFIFAワールドカップ2022の日本対ドイツ戦が開催されたこともあり、宴会場を後にしてからも、各部屋では深夜まで大盛り上がりでした。

翌日の朝食後に解散となり、参加者の皆さんは三々五々周辺の観光地を見て回った様です。



19期生同期会秋田集会

小川一見（19期卒）

コロナ禍により延期となっていた同期会を、令和5年6月25日（日）26日（月）に、東北秋田市の「秋田温泉さとみ」において、36名（同伴者含む）が参集し、卒後60年の節目となる記念すべき集いとなりました。

当日は、ゲスト参加して頂いた学園20期卒で秋田県大潟村に入植され、村長を歴任された黒瀬喜多（旧姓鞍田）さんから、これまでの体験談等をお話して頂き、思い出多い盛会となりました。



鯉淵学園 第19期生同期会：秋田集会 令和5年6月25日 於 秋田温泉さとみ

22期生同期会 茨城で開催

菊池洋一郎（22期卒）

人生80年有余年の暮らしの中で、内原村鯉淵での生活は僅か2年の起き伏せでありましたが、卒後60年経った今以て続く同期会の不思議な謎は、スーパーコンピュータ富岳でも解き明かすことは難しいのでは？と思うところです。

今回は首都東京での開催構想が浮上しておりますが、早期実現を期待しております。

お互い高齢の身であり、尚一層健康管理に留意し、笑顔で再会できることを心から念じております。

令和5年6月26日から28日の日程で、22期同期会を茨城県の筑波で開催しました。前回は平成30年に東京都両国で開催され、今回は茨城での開催が決まりました。令和2年2月に7名が集まり、発起人会を結成して、準備を進めてまいりました。しかし、コロナの大流行によって、令和2年、3年、4年と中止せざるを得ませんでした。

令和4年には、開催を決めて案内状を発送しましたが、またまた第7波の流行により中止になりました。今年の5月からコロナが2類から5類になって、従前の生活に戻すべきと社会が動きだしたことから、6月26日から28日に同期会を開催するこ

【同窓会県支部・卒期別の活動紹介】



とになりました。本当に待ちに待った開催です。
茨城開催は鯉淵学園を訪れる事が目的であります。26名の参加者の中には、卒業後初めて学園を訪れる方もおりました。私達も卒業後56年がたち、学生の頃の思い出を語りながらの校内の散策は感無量でした。
散策の後、長谷川学園長のお話を聞く場を設定して頂き、今の学園の状況や今後の運営についてのお話を伺いました。私達は学園の運営は大変難しいと認識して居りましたが、鯉淵学園



の精神にそった教育、素晴らしい教育環境、特色あるカリキュラム、AIを駆使した先端技術教育、それぞれのコースで特色ある教育をすることによって、鯉淵学園の存続は心配ないというお話を頂き、安心いたしました。
3日間の同期会を終えて、また来年会えることを願いながら、閉会することが出来ました。参加者、学園の関係者、発起人の皆様にお礼を申し上げます。ありがとうございます。

【同窓会事務局役員 退任のあいさつ】



23期生
江幡 ゆき子

「七〇周年記念事業が終わるまで同窓会事務局を手伝ってくれ」と当時の同窓会会長（同期）から頼まれ、簡単に引き受けてからあつという間に八年の月日が流れてしまいました。事務局長はじめ、本部役員の皆様のご協力とお気遣いのおかげで、月二〜三回の学園通いは張りのある刺激的な日々となりました。
この年齢になって学園と関わることは考えてもいませんでしたが、



19期生
倉辻 芳次

同窓会本部の事務局担当を平成26年4月に預かり、本年3月をもって新役員に業務引継ぎをいたしました。これまで長年にわたり、全国各支部長並びに本部役員、会員各位には大変ご協力ご支援をいただき、心から感謝申し上げます。
同窓会本部の事務局担当は、同

窓会会則第17条に明記してあるとおり、これまで学園職員が長年にわたり担当してきました。
学園の事務担当等の諸事情から平成26年度からは同窓会本部役員が運営を担ってまいりました。
会長、副会長、事務局長、事務局員の連携の基に、常任委員と協力して各事業の推進に努めてきました。
母校鯉淵学園の存続運営については、幾多の困難を乗り越えてまいりましたが、間もなく迎える学園創立80周年が大いなる希望を持って迎えられるよう、同窓会の更なる支援をご期待申し上げます。

一人・二人と同期生の訃報を受けるたび、少しでも学園や同窓会に役立つことが出来るのは、本当に有り難いことと健康に感謝の日々でした。
この間、全国各地で活躍する同窓生の話題を耳にするたび、頭が下がるとともに自分のことのように慶び、学園卒業生として誇りを感じておりました。
また、青春時代に戻っての同期会開催の便りは、想像するだけで楽しいものでした。高齢になってからは、二年毎と言わず毎年集まろうという盛んな期もあり、いつまでもこの絆が続くことを願って止みません。
長い間有難うございました。学園と同窓会の益々のご発展を祈願いたします。

情報提供のお願い

次の会員は住所不明になっております。

24	21	20	19	17	17	17	17	16	15	15	15	15	14	14	14	13	12	10	10	10	10	9	9	9	9	9	8	8	8	6	6	5	5	5	4	3	2	2	1	1	1			
宮崎	橋本	伊藤	大沼	堤	西木	矢口	松坂	足立	岩井	田辺	中根	鷹田	田淵	宮沢	野口	小笠原	枝川	福田	平原	大前	杉本	須田	山口	藤田	別所	伊原	山之内	梶田	中山	有馬	祝道	吉清	荒木	黒石	杉澤	竹山	鹿江	佐々木	惣洞	前田	伊藤	日向		
守	誠一	英昭	純次	絃一	剛史	晃	郁夫	紀夫	勝典	吉保	市郎	道之助	祐一	昭男	忠男	重二	修身	那民	守城	鉄二	芳信	司朗	松夫	弘子	弘子	三丸	仁	平内	親志	逸二	義見	勇蔵	賢省	秀三	琢史	喜通	義司	武史	宝務	道治				
(岐)	(福)	(岐)	(秋)	(長)	(鳥)	(茨)	(青)	(新)	(岐)	(福)	(茨)	(秋)	(北)	(長)	(茨)	(青)	(茨)	(広)	(鹿)	(千)	(福)	(鹿)	(岡)	(京)	(東)	(鹿)	(青)	(鹿)	(新)	(長)	(滋)	(熊)	(徳)	(三)	(和)	(京)	(京)	(静)						
60	59	59	59	57	58	58	56	55	55	55	53	47	46	45	45	43	43	39	39	37	36	36	35	34	34	33	33	32	32	29	29	27	26	26	26	25	25	24	24	24	24			
小暮	阪口	澤向	鈴木	石黒	西新田	壽福	高田	稲垣	小池	八柳	三浦	三上	宇根崎	堺	神谷	喜舎場	深水	宮城	中村	松岡	工藤	小田部	中島	伊藤	廣田	正木	金城	秋野	三代	奥田	堀川	風早	加藤	判田	堀川	住谷	草谷	古田	晦日	陣内	齊藤	原口		
祥一	友美	香里	真理子	大	尚生	智将	実苗	実苗	奈津子	基将	洋平	浩一	徹	和輝	好彦	裕信	安二	貴子	和典	裕二	裕二	八重子	浩子	典子	敏男	美幸	昇子	輝久	真一	郁江	章史	早美	喜美子	良樹	章史	陽子	雅江	正明	文夫	栄子	美代子	次男		
(群)	(滋)	(東)	(埼)	(山)	(沖)	(鹿)	(北)	(千)	(茨)	(秋)	(熊)	(福)	(広)	(福)	(福)	(沖)	(鹿)	(佐)	(長)	(野)	(福)	(北)	(千)	(長)	(福)	(福)	(沖)	(新)	(大)	(愛)	(愛)	(茨)	(石)	(神)	(茨)	(山)	(徳)	(兵)	(福)	(京)	(愛)			
賛助	75	74	73	73	72	72	71	71	71	71	71	70	70	69	69	68	68	67	67	66	66	66	65	65	64	64	64	64	64	63	63	63	62	62	62	61	61	61	61	61	61			
高井	清水	齊藤	林	新堀	宮崎	小野	加納	六戸	兼光	関野	鈴木	齋藤	赤荻	畔野	松原	永井	茅根	加藤	本多	黒木	黒田	永井	鈴木	遅塚	綿引	中曾	原	中村	亀田	田中	丸山	吉川	大塚	安江	林	佐藤	木村	西之内	河村	太田	若松			
徹	優地	舞	彦輝	茜	公輔	幹真	真生	柁斗	宏学	紘子	桃花	遙	さくら	結奈	旭弘	裕子	唯香	かえで	由佳	亜美	幸助	朝郎	聡美	友美	恵美	友美	祐子	亜依	聖子	正剛	志野	悠	玲奈	周平	信一	信一	勇樹	勝彦	吉栄	和宏				
(千)	(埼)	(茨)	(茨)	(茨)	(大)	(茨)	(長)	(野)	(葉)	(茨)	(茨)	(茨)	(茨)	(茨)	(茨)	(茨)	(茨)	(茨)	(大)	(兵)	(東)	(茨)	(茨)	(沖)	(島)	(埼)	(茨)	(茨)	(茨)	(福)	(愛)	(愛)	(山)	(宮)	(高)	(高)	(大)	(静)	(福)					
葉	玉	城	城	城	阪	野	城	城	城	城	城	城	城	城	城	城	城	城	城	分	庫	京	城	城	根	根	玉	城	城	城	城	城	島	知	知	崎	崎	崎	阪	岡	井			
窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓
窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓
窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓
窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓
窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓

同窓会費納入のお願い

同窓会の運営は、全国同窓会員からの会費及び寄付金によって成り立っております。しかしながら会費未納者が多く、大変苦しい運営状況です。昨年は永年会費納入者34名、年会費70名、寄付金126名で、一部の会員の協力によって運営している状況です。

特に全国の会員に配布している同窓会報の発行には毎回100万円程の多額の経費を要しております。会費納入の低迷状況が継続すると、これまで続いてきた同窓会報の発行が出来なくなり、同窓会の活動も大変困難になります。何卒、この状況をご理解いただき、永年会費、年会費未納会員の方々の絶大なご協力を心からお願ひ申し上げます。併せて大変ご無理なお願いではありますが、寄付金(会報発行維持費に充当)についても、ご支援を頂ければ幸いです。

卒業期別永年会費納入表

令和5年3月の新卒業生は76期生です。

卒業後の経過年数	卒 期	金 額
新卒業生～5年	76期～72期	40,000円
6年～10年	71期～67期	37,500円
11年～15年	66期～62期	35,000円
16年～20年	61期～57期	32,500円
21年～25年	56期～52期	30,000円
26年～30年	51期～47期	27,500円
31年～35年	46期～42期	25,000円
36年以上	41期～1期	22,500円

会費等払込みの注意点

これまで郵便局で払込する場合は、払込料金は同窓会事務局負担で無料でしたが、昨年1月17日から現金で払込する場合は、払込の方が新たに加算料金として110円を負担して頂くことに改定されましたので、ご注意ください。

なお、ゆうちょ銀行口座の通帳またはカードで払込する場合は、加算料金はかかりません。詳細については、郵便局の窓口にお問い合わせ願ひします。

編集後記

今年4月より同窓会本部事務局を担当することになりました。不慣れな点が多く、色々とご迷惑をおかけする事があると思いますが、よろしくお願ひ致します。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、同窓会活動も数年にわたりほぼ停止状態でしたが、「5類感染症」に移行後は各地で少しずつ活動が再開しているようです。これまで以上に活発な活動が行われる事を祈りながら、会長、副会長、事務局員そして常任委員の皆様とともに、同窓会本部活動の推進に努めていきたいと思ひます。

皆様の更なるご支援をよろしくお願ひ申し上げます。

同窓会事務局長 石塚 仁 (33期卒)